



外国債券の基礎知識と リスクについて

2025年2月21日現在





目次

I	外国債券の基礎	…P. 3
	1. 外国債券とは	
	2. 外国債券の種類	
II	外国債券の魅力	…P. 8
	1. 金利	
	(1) 海外の金利	
	(2) 円高抵抗力	
	2. 分散投資	
	3. 為替差益・為替差損	
III	外貨MMFの活用	…P. 10
	1. 外貨MMFとは	
	2. 外貨MMFの活用	
IV	外債投資に関するリスク	…P. 12
	1. 信用リスクと格付け	
	2. 為替変動リスク	
	3. 価格変動リスク	
	4. カントリーリスク	
	5. 流動性リスク	
V	外債投資の実際	…P. 16
	1. 約定金額の計算	
	2. 外国債券の適用為替レート表	





I. 外国債券の基礎

1. 外国債券とは

外国債券とは、次のいずれかに該当する債券のことをいいます。

発行体	海外の政府や企業
通貨	元本の払い込み、利子、償還金の受け取りのいずれかが海外の通貨、またはすべてが海外の通貨でおこなわれる
発行場所	海外の市場

基本的に、国内債券と同じ仕組みの商品です。しかし、発行される債券の国の信用度や為替相場の影響を受けてしまうところが国内債券と違います。外国債券のことを外債と呼ぶこともあります。

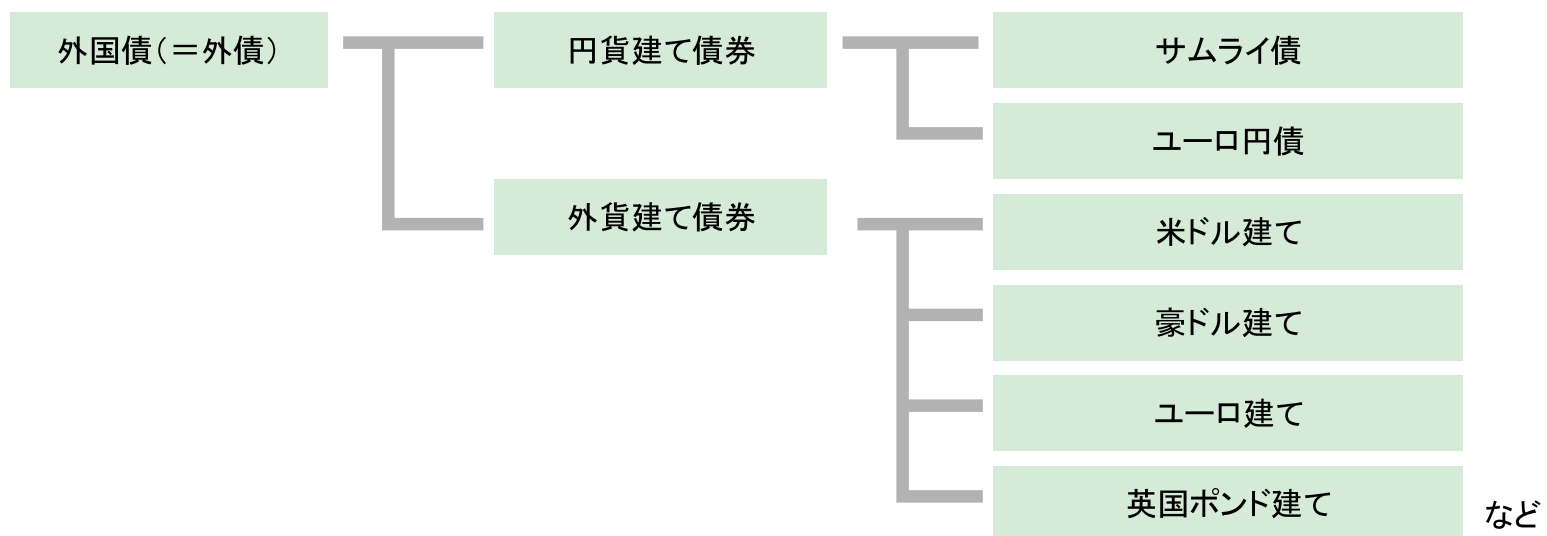




2. 外国債券の種類

●発行通貨による分類

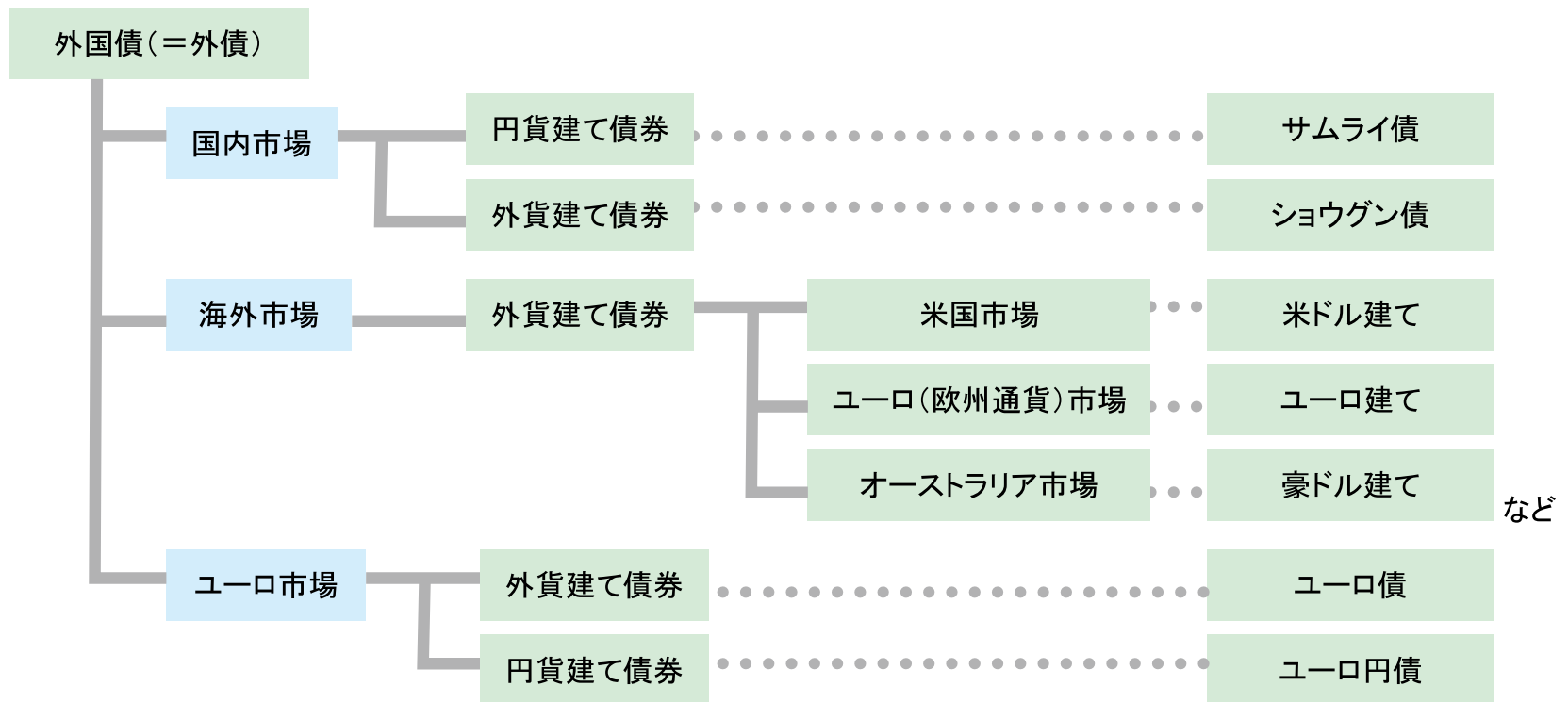
外国債券は、払い込みや利子、償還金が日本円以外の海外の通貨で行われるものと、日本円で行われるものに分類することができます。





●発行市場による分類

外国債券は、債券を発行するマーケットにより分類することができます。





国内市場	日本円で発行される外国債券は、日本の投資家向けに発行されるため、円建てのものや、利子もしくは償還金の通貨が海外の通貨である二重通貨建てのものが多くっております。
海外市場	日本円以外の通貨で発行される外貨建て債券は、海外の市場で発行されるのが主流です。海外市場で発行された自国通貨の債券(その国の投資家にとって国内債)のうちで、日本にいる投資家も米国市場(米ドル債)、オーストラリア市場(豪ドル債)などで発行された債券に投資することが可能です。
ユーロ市場	ユーロ市場は、自国市場以外の金融取引の場のことをさします。そしてここを発行市場として債券を発行することができます。これを「ユーロ債」と呼び、さらに円建てのものを「ユーロ円債」と呼びます。ユーロ市場は特定の市場をさすものではありません。ユーロ市場は、さまざまな通貨での債券発行が可能です。 →発行体は為替や金利情勢に応じて多様な通貨で資金調達をすることが可能です。



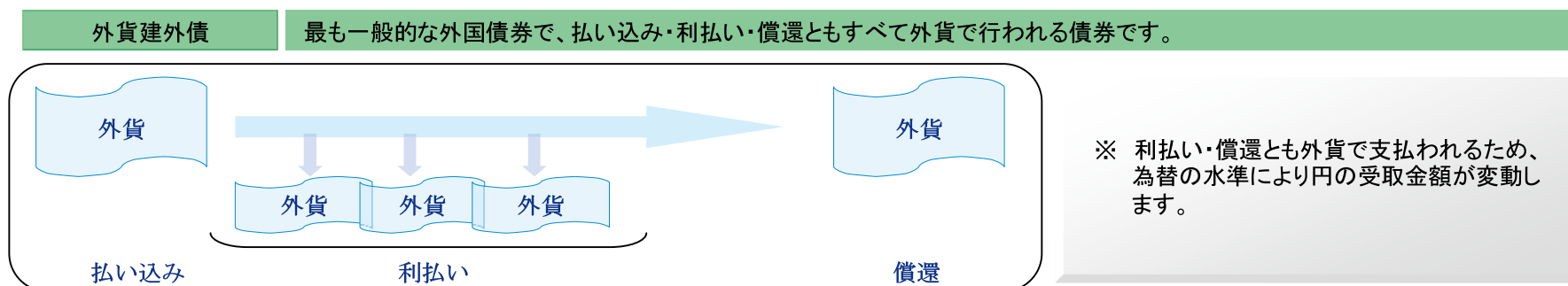


●債券の形態による分類

利付債	発行から償還までの一定期間ごとにクーポンと呼ばれる利息が支払われます（通常、半年に1回、年2回払い）。 クーポンが市中金利等に連動して変動するものを変動利付債といいます。
割引債	額面金額より本来発生するはずの期中のクーポン相当分を割り引いて発行され、満期時に100%額面償還される債券です。
ゼロ・クーポン債	券面にクーポンがついていないタイプです。
ディープ・ディスカウント債	大幅に割り引いて発行しつつも、クーポンが多少でもついているタイプです。

●募集の形態による分類

私募債	少数・特定の投資家を対象に発行される債券です。この場合の少数とは50人未満の投資家に勧誘する場合をいいます。
公募債	不特定多数の投資家を対象に広く発行される債券です。



Ⅱ.外国債券の魅力

1. 金利

(1) 海外の金利

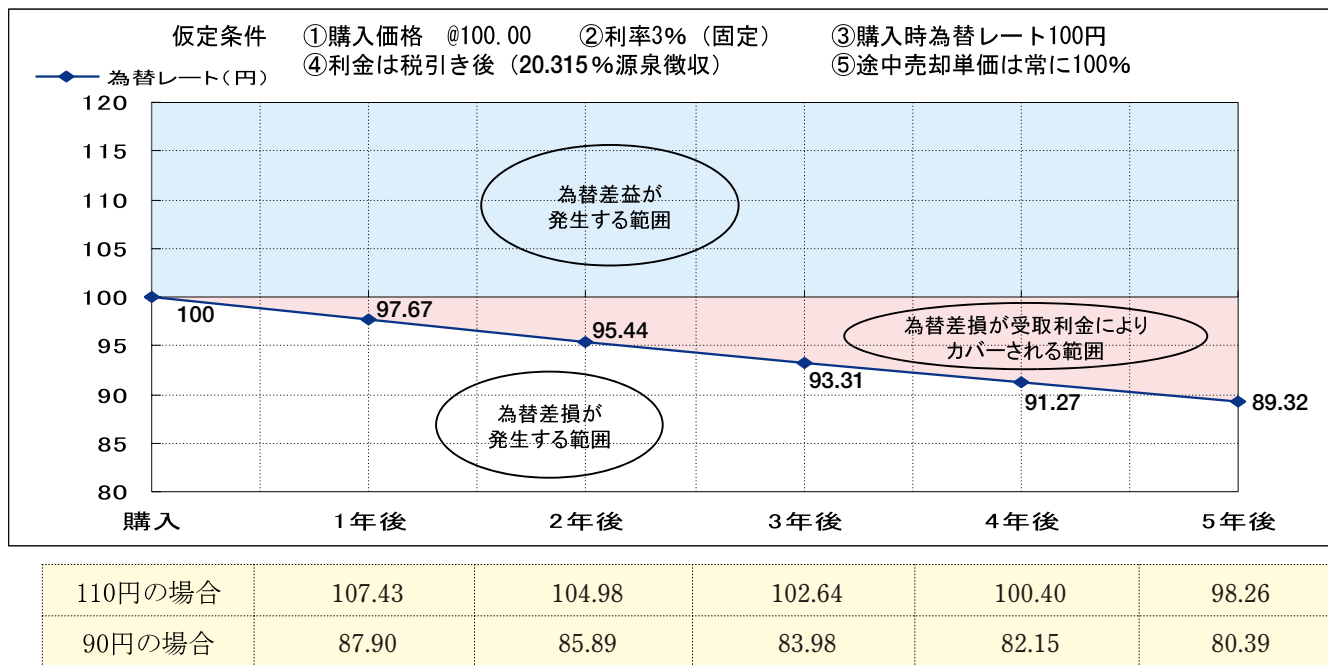
国内金利は海外金利と比較すると低い水準が続いております。外国債券投資の一番の魅力は好利回りです。

(2) 円高抵抗力

外債の魅力の1つに定期的な利金の受け取りがあります。

償還時(もしくは途中売却時)の為替レートが購入時より円高になっていても、一定水準までの円高であれば、高い金利が円高による為替差損をカバーしてくれます。

また、運用期間が長ければ長いほど、また、内外金利差が大きければ大きいほど、その債券の損益分岐点となる為替水準は低く(円高に)なります。



※上記グラフはイメージであり、実際の売買とは異なります。

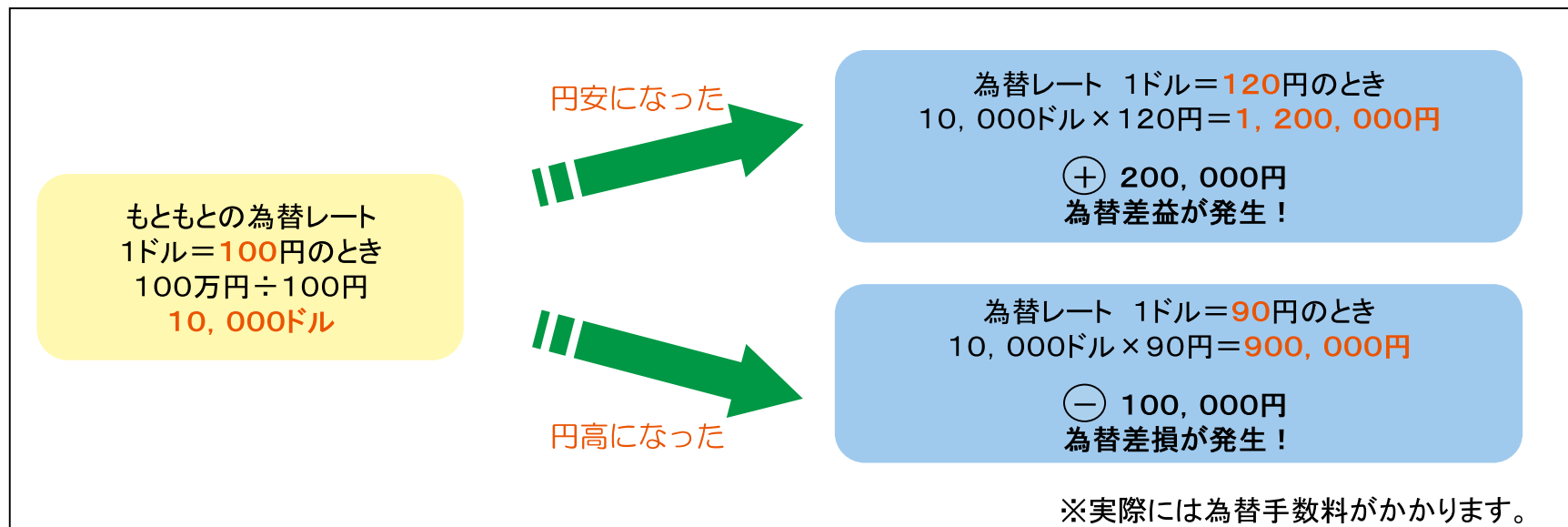
- ・損益分岐点為替レートは購入時の為替レートにより変わります。
- ・途中売却単価は、売却時の金利水準等により変動し、それにより損益分岐点為替レートも変動します。
- ・受け取った利金の再投資利回りの変動により、損益分岐点為替レートも変動します。

2. 分散投資

通貨の分散	日本円以外の外貨で運用することにより、円安による円資産の減少を抑え、日本より高い金利を享受できます。また、通貨によって為替レートの動きが異なることに着目し、複数の通貨に分散して投資することによって、特定通貨の為替リスクを低減することもできます。
時間の分散	「安く買って高く売る」ことが収益を得る基本ですが、今が本当に安いのかは専門家でも判断が難しいものです。したがって一度に投資するのではなく、投資する時期を分散することが有効です。

3. 為替差益・為替差損

外貨投資では日本円を外貨に換えたときと、外貨から日本円に戻したときの金額の差でも利益を得る機会があります。円に換算した受取金額は、為替相場が円安になれば増えます(為替差益)が、逆に円高になれば減少(為替差損)します。

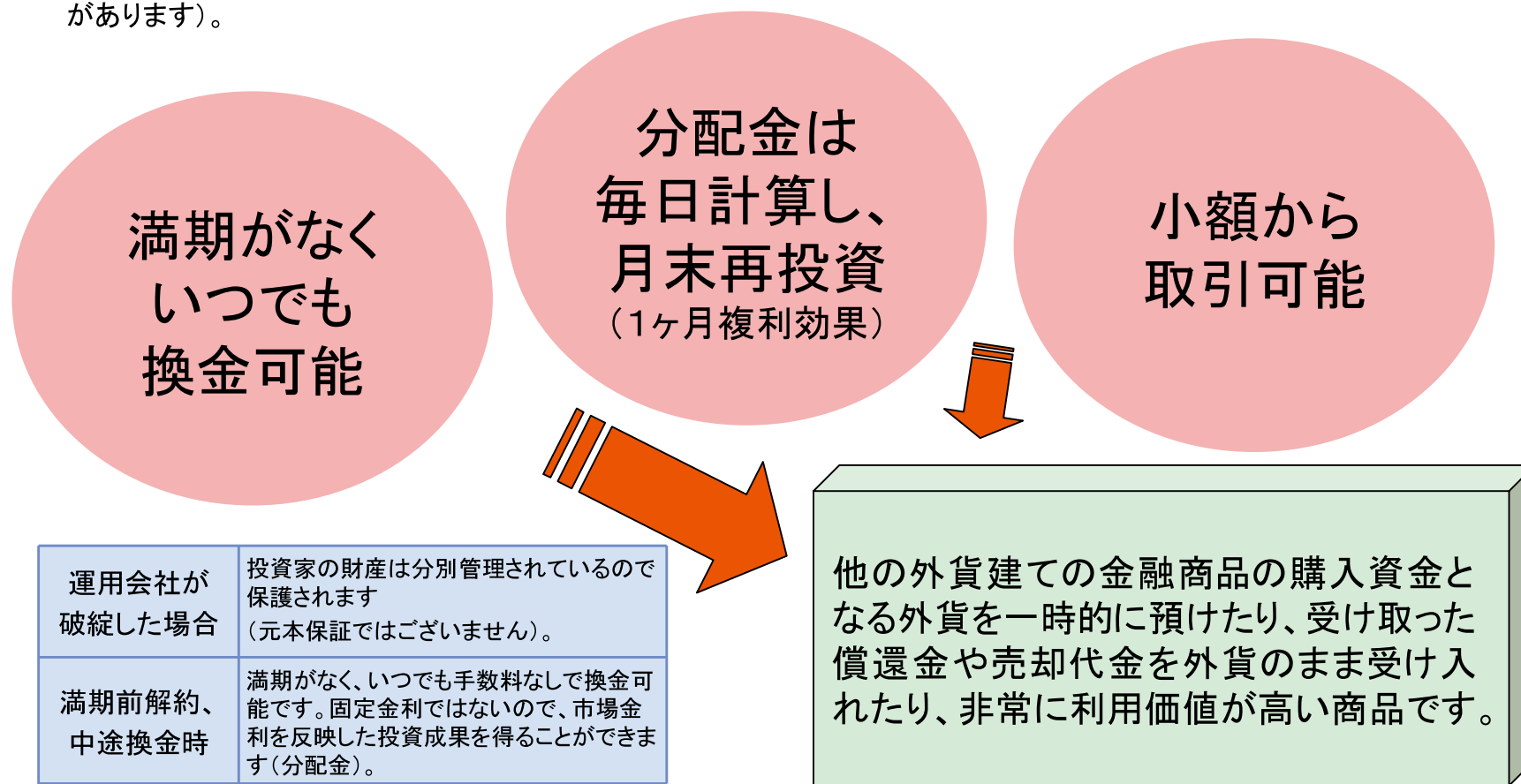




Ⅲ.外貨MMFの活用

1. 外貨MMFとは

外貨MMFのMMFとはマネー・マーケット・ファンドの略で外貨建ての債券を中心に組み入れた「投資信託」です。外貨MMFは、高い格付の債券やコマーシャル・ペーパーといわれる優良企業が短期資金を調達するために発行する無担保の約束手形といった短期金融商品を中心に運用され、安全性を高めた運用を目指す商品です(ただし、元本を下回る可能性があります)。





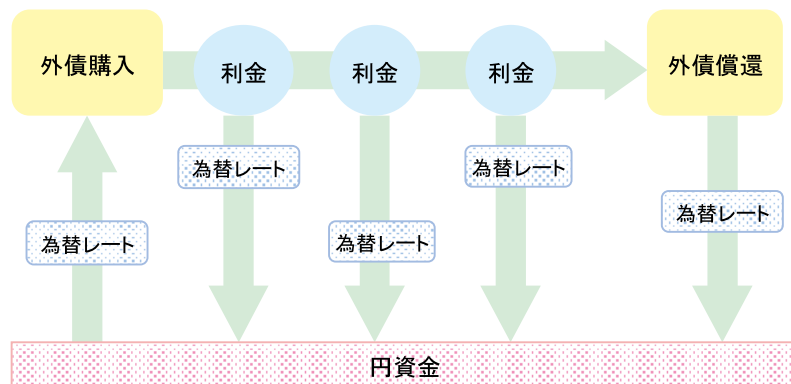
2. 外貨MMFの活用

外国債券の利金・償還金を「円」で受け取る場合、各利払時および償還時の為替レートで円転されますが、外貨のまま元利金を受け取る場合は、その時々々の為替レートの影響を受けなくなります。また、その外貨を外貨MMF等で保有しておけば、円転するタイミングを選ぶことが可能になります。

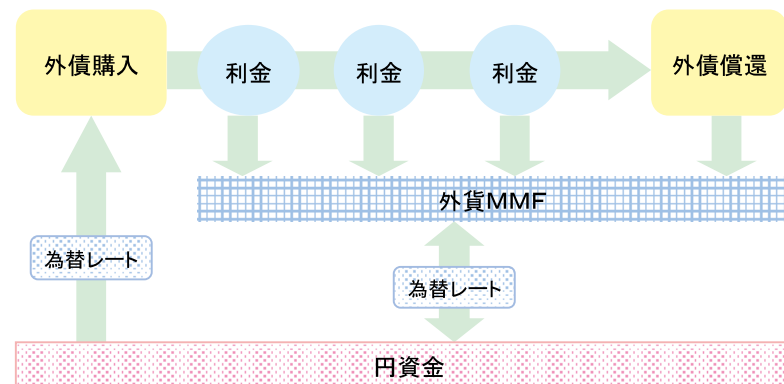
※特にお申し出のない場合は、利金・償還金は円貨でのお受け取りとなります。外貨MMFの自動買付(外貨パック)をご希望される場合には、別途、お手続きが必要になります。

外貨パック 外貨建債券の利金・償還金等により、「外貨MMF」を自動的に買い付けますので、手続きの手間が省け効率的です。為替相場の動きを見ながら、いつでも円転することができます。

利金・償還金を「円」で受け取る方法：
各利払時及び償還時の為替レートで円転されます。



利金・償還金を「外貨」で受け取る方法：
外貨のまま元利金を受け取りますので、その時々々の為替レートの影響を受けなくなります。また、その外貨を外貨MMFで保有しておいて、その後、タイミングをみて円転することが可能です。



IV.外債投資に関するリスク

1. 信用リスクと格付け

債券を購入するということは、発行体にお金を貸すということです。したがって、発行体による利払の遅延や元本回収不能などデフォルト(債務不履行)のリスクをとまいます。これらのリスクを「信用リスク」と呼びます。この信用リスクを判断する方法として「格付け」を利用する方法があります。

- ※格付けは、格付機関が個別の発行体や債券の信用力を評価したものです。
- ※格付けが低くなるほど債務不履行に陥る可能性も高まると考えられています。
- ※格付けは、投資判断の材料として提供されています。
- ※格付けは、発行体の財務状況等の変化によって、将来変更される可能性があります。

株式会社格付投資情報センター (R&I) の「長期個別債務格付け」の定義

		記号	元利払いの確実性
	投資適格格付	AAA	信用力は最も高く、多くの優れた要素がある。
		AA	信用力はきわめて高く、優れた要素がある。
		A	信用力は高く、部分的に優れた要素がある。
		BBB	信用力は十分であるが、将来環境が大きく変化する場合、注意すべき要素がある。
	投機的格付	BB	信用力は当面問題ないが、将来環境が変化する場合、十分に注意すべき要素がある。
B		信用力に問題があり、絶えず注意すべき要素がある。	
CCC		債務不履行に陥っているか、またはその懸念が強い。 債務不履行に陥った債権は回収が十分には見込めない可能性がある。	
CC		債務不履行に陥っているか、またはその懸念が極めて強い。 債務不履行に陥った債権は回収がある程度しか見込めない。	
C		債務不履行に陥っており、債権の回収もほとんど見込めない。	

プラス(+)、マイナス(-)表示

AA格からCCC格については、上位格に近いものにプラス、下位格に近いものにマイナス表示をすることがあります。なお、CC格では、契約の内容や回収の可能性などを反映し、長期個別債務格付けを発行体格付けと異なる符合にする場合、プラス、マイナスをつけることがあります。

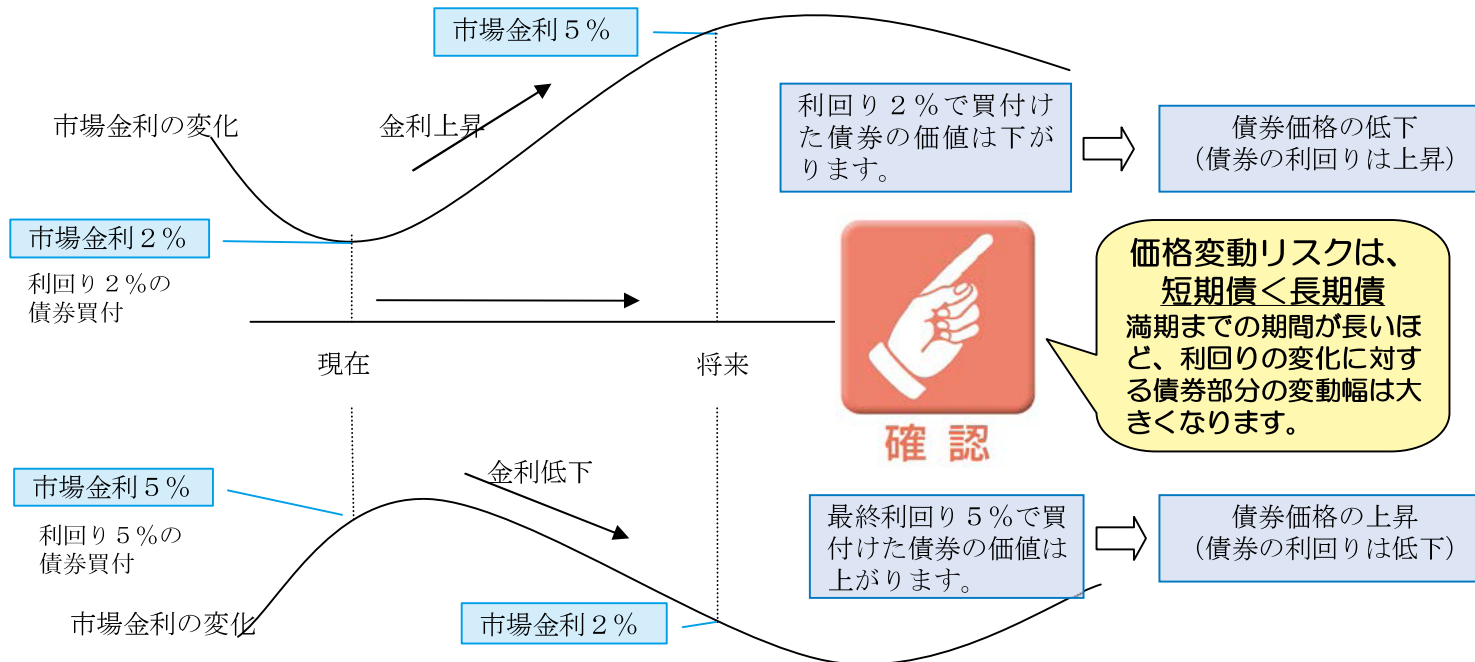


2. 為替変動リスク

為替レートは絶えず変化しており、そのためお客様が保有する外国債券の通貨(米ドル・ユーロ等)が、円に対し強く(円安)になれば為替差益が発生し、弱く(円高)になれば為替差損が発生します。

3. 価格変動リスク

債券は満期まで保有すれば額面金額で償還されますが、途中で売却する場合にはそのときの時価であり、額面で売却できるとは限りません。市場金利の動向により売却価格が変動しますので、市場金利の変動に注意する必要があります。



市場金利が上昇すると、その金利水準に基づき高い年利率(クーポン)で新たに発行される債券のほうが有利なため、既発の債券価格は下がります。逆に、市場金利が低下すると、新たに発行される債券は低い年利率(クーポン)で発行されるため、既発の債券の価格は上昇します。

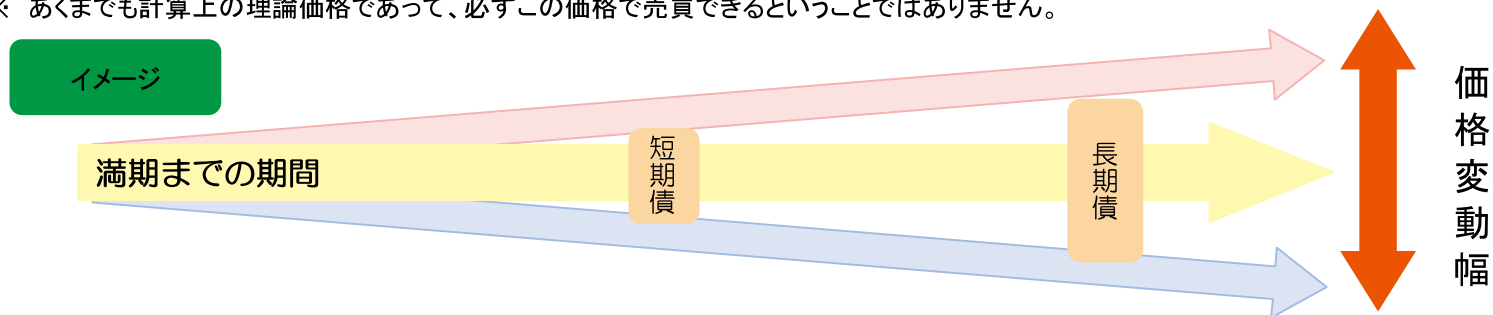




金利変動の影響による価格変動の試算

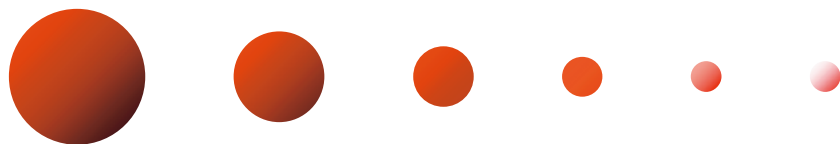
	金利が1%上昇した場合		金利が1%低下した場合	
クーポン6% 満期2年 債券買付 100円	98.24円	▲ 1.76円	101.82円	+ 1.82円
クーポン6% 満期10年 債券買付 100円	94.12円	▲ 5.88円	106.67円	+ 6.67円
クーポン3% 満期2年 債券買付 100円	98.15円	▲ 1.85円	101.92円	+ 1.92円
クーポン3% 満期10年 債券買付 100円	92.86円	▲ 7.14円	108.33円	+ 8.33円

※ あくまでも計算上の理論価格であって、必ずこの価格で売買できるということではありません。



- ※ 債券は利回りが上昇すれば価格は下がり、利回りが低下すれば価格は上がります。
- ※ クーポンが同じ場合、残存期間の長い債券の方が、利回りの変化に対する価格の変動幅は大きくなります。





4. カントリーリスク

通貨を発行する国家固有の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱等によって投資元本を割り込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、投資資金の回収が困難となったり、円を含む他通貨への交換に影響が出る可能性があります。

5. 流動性リスク

流動性とは、債券の売買をしようとするときの、売買のしやすさのことを指します。一般的には、発行残高の多い銘柄種別ほど流動性が高いといわれています。流動性の高い銘柄ほど低利回りであるのが通常です。発行体の信用度が低い、発行金額が少ない(私募)等の理由から、市場で買い手が見つからず、期中に売却ができなくなるリスクがあります。

一般の外貨建外債のリスク一覧	償還まで保有する場合	途中で売却する場合
信用リスク	○	○
為替リスク	○	○
価格変動リスク	—	○
カントリーリスク	○	○
流動性リスク	—	○



V.外債投資の実際

1. 約定金額の計算(円貨で決済することを前提とした、概算金額の求め方)

新発債買付金額の求め方 $\{ \text{額面} \times \text{債券価格(外貨建)} / 100 \} \times \text{買付時為替レート} = \text{買付金額(円)}$

既発債買付金額の求め方 $\{ \text{額面} \times \text{債券価格(外貨建)} / 100 + \text{経過利子} \} \times \text{買付時為替レート} = \text{買付金額(円)}$

1回の利払い金額の求め方 $\text{額面} \times \text{年利率} / \text{年利払い回数} \times (1 - 0.20315) (20.315\% \text{課税}) \times \text{利払い時為替レート} = \text{利払い金額(円)}$

売却金額の求め方 $\{ \text{額面} \times \text{債券価格(外貨建)} / 100 + \text{経過利子} \} \times \text{売却時為替レート} = \text{売却金額(円)}$

償還金額の求め方 $\text{額面} \times \text{償還時為替レート} = \text{償還金額(円)}$ (この式には同時に支払われる利金は含まれておりません)

経過利子の求め方 $\{ \text{額面} \times \text{クーポン} / 100 \times \text{経過日数(現地方式)} / \text{1年の日数(現地方式)} \} \times \text{為替レート} = \text{経過利子}$

計算タイプ	日数計算方式	主要対象債券
ヤンキー債型	直前利払日から受渡日までの片端入れ 受渡日が31日の場合、当該月は31日で計算 1年=360日、1ヶ月=30日	米国事業債 ヤンキー債 スイス・フラン債
ユーロ債型	直前利払日から受渡日までの片端入れ 受渡日が月末に当たる場合は、当該月は30日で計算 1年=360日、1ヶ月=30日	ユーロ債
ユーロ通貨債型	直前利払日から受渡日までの実日数片端入れ 1年=直前利払日から次回利払日までの実日数片端入れ 1ヶ月=実日数	ドイツ国債、フランス国債 オランダ国債、スペイン国債
米国財務省債券型	直前利払日から受渡日までの実日数片端入れ 1年=(直前利払日から次回利払日までの実日数片端入れ)×2 1ヶ月=実日数	米国財務省中期・長期債 オーストラリア・ドル債、イタリア国債、ギルト・エッジ
カナダ・ドル債型	直前利払日から受渡日までの実日数片端入れ 1年=365日、1ヶ月=実日数	カナダ・ドル債

経過利子は利付債券を売買する際に発生し、債券の購入者が前所有者(売り方)に支払います。つまり、購入時は購入代金に含まれ、売却時は売却代金に含まれます。これは、債券購入時期にかかわらず、利金は利払日時点の所有者に対して支払われるためです。たとえば、利払日の直前に債券を購入した場合、経過利子を考慮しないとその利子計算期間(前回利払日の翌日から当該利払日まで)のうち、実際にはごく短期間しか保有していなかったにもかかわらず、その利子計算期間に対する利金を受け取り、逆に前所有者は、その利子計算期間のほとんどの期間においてその債券を保有していたにもかかわらず、利金を受け取れません。したがって、債券の購入者が、未保有であった期間に対応する日割りで計算された利子相当分を購入時に前所有者に支払うことで、未保有期間分を調整しているのです。



2. 外国債券の適用為替レート表

外国債券等の売買約定適用為替レートは、下記の為替スプレッドを含んだものとします（買い約定は＋、売り約定は－）。

- 外国債券
 - ・ 原則としてお申込日の「午前10時」の為替相場に為替スプレッドを含んだものとします。
- 外貨MMF
 - ・ 午後2時までのお申込みについては、原則としてお申込日の「午前10時」の為替相場、午後2時以降のお申込みは翌営業日の「午前10時」の為替相場にそれぞれ為替スプレッドを含んだものとします。

なお、外国債券・外貨MMFの10万米ドル相当額以上のお取引の場合の適用為替レートは、お申込み時の実勢為替相場をもとに決めさせていただきます。

【為替スプレッド】

金額区分	米ドル	ユーロ	豪ドル
10万米ドル相当額未満	基準レート±0.50円	基準レート±0.80円	基準レート±1.00円
10万米ドル相当額以上 50万米ドル相当額未満	基準レート±0.30円	基準レート±0.40円	基準レート±0.50円
50万米ドル相当額以上	個別に提示させていただきます。 お取引のある部店までお問い合わせください。		

【基準為替レート】

基準為替レートは、お申込み金額に応じて、下記時間帯の外国為替市場実勢をもとに当社が決定します。

10万米ドル相当額未満	約定日午前10時の市場実勢レート
10万米ドル相当額以上	お申込み時点の市場実勢レート





留意事項

- ◆ 当資料は情報提供を目的としてめぶき証券株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ◆ 当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。
- ◆ 当資料で使用している表・グラフは過去のものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。
- ◆ 当資料には一定の見解等が含まれておりますが、その内容はあくまでも作成日時点のものであり、将来変更される可能性があります。また、市場動向や個別銘柄の将来の動向を保証するものではありません。
- ◆ 当資料の一部または全部を使用した場合に生じた直接的・間接的な損失につきましては、当社に適用される法令のもとで免責が該当しない場合を除いては、一切の責任を負いかねます。
- ◆ 外国債券は、その商品性格から次の特徴をご理解のうえ、ご購入ください。
 - ・ 外国債券はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。
 - ・ 外国債券は金融機関の預金と異なり元金が保証されているものではありません。
 - ・ 外国債券は保険契約及び預金ではありません。
 - ・ 外国債券は保険契約者保護機構の補償対象契約ではありません。
 - ・ 外国債券は預金保険の対象ではありません。
- ◆ お申込にあたっては、契約締結前交付書面、目論見書または販売説明書等をご確認いただきますようお願いいたします。
- ◆ 記載の内容は、個人投資家(居住者または国内に恒久的施設を有する非居住者)に対する証券税制の一般的な説明を目的としております。法律上または税務上の個別具体的な取扱い、判断等は弁護士ならびに税理士または最寄りの税務署等にご相談ください。

